

光受寺通信

NO.177

発行元 光受寺



9月某日の岐阜新聞に、全国で100歳以上の人が9万人を超えているという記事が掲載されていた。ちなみに岐阜県だけでも1,500人を超えているのだという。

内、女性がほぼ9割を占めるという、むしろ平均寿命において男性より歳より長生きをみることが驚きである。

今からおよそ500年前の平均寿命は56歳であるといわれている。これは蓮如上人の御文に書かれている第4帖の2に「それ、いまのとき、命は56歳のなり。しかるに当時において、年々、命は56歳のびたらむと、女、男、計りもしていかめしきことなるべし」とある。そこから、およそ300年も平均寿命が伸びたことになる。

ただ仏教では人生の長短を問題にはしていない。それがかたじけなくも、「ゆめまほろしく、ただ50年、100年のうちのことなり」といふと、肝心なのはかかない人生を「どう生きていけるか」なのである。

通称「白骨の御文」の結びには「たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて」とある。つまり、まずもって後生の一大事の解決に心掛けなければならぬというのである。

「南無阿弥陀仏」のおおまかには真実の世界からの呼びかけである。その呼びかけが私に届いた時、迷いの世界から、真実の世界に生まれ、大きな世界に生きるの通路が開かれたのだ。「この身を生かすに足らず、女、男、計りもして、この身を度せよ」といふ文、今こそ、浄土往生が確約された正定聚の位に住すことを願うべき時である。

体温までは耐える

M・M

今年の酷暑も、ようやくおさまってきましたが、地球温暖化の不気味さは広く人々の間に認識されるようになってきました。

私は米寿を過ぎても、日々家庭菜園に取り組んでおりますが、家族からは日中はその中では「暑い」と言われております。

ある会合で分かったのですが、暑さが話題になった時、「森さんはかなわね、日中でも気後れせず畑仕事をやっています。近所でも有名なやう。」と言われてしまいました。そこで答えしたのは「体温までは耐える」とのこと。どういふことか。

若いころからの経験で、最高気温36度の分までは炎天下でも作業しており、今でもその程度の暑さには耐えることになっております。健康法らしくもものは「日何回となく、」ポカリスエットを飲んで、水分補給をするということです。

温暖化の時代は暑さに耐える力をつけることです。そうでなければ、屋内で冷房をかけていても熱中症にかかることとなります。



温暖化はCO2が原因だと言われますが、地球規模でCO2を下げるにはまだ年数がかかりそうです。来年に向けて暑さに耐える気概を高めてまいります。

今月の掲示板

信、不信、ともに、
仏法を心に入れて、
聴聞もつすべきなり

『蓮如上人御一代記聞き書』より

事を理解し判断することが難しいようです。自分の人生を意義あるものにしていくために、自分の理解に適っているかどうかではなく、自分の理解、不理解を超えた言葉に耳を傾け、真実に目覚めていく歩みが大切だといわれるのです。

仏法聴聞の心得として、信じられようが信じられまいが、とにかく聞くことを大切にしながら聞いていこう。とすると私たちは自分の知識や経験などを基にした思いや考えでしか物

新発意誕生を喜ぶ

匿名投稿

光受寺通信の9月号で、新発意誕生の記事を拝見し、本当に実現したことを、とても喜ばしく感じました。

新発意の話は今春早々に伺ってはありましたが、こんなに早く実現できたことは驚きでした。「西親の熱意が背景にあったことと思いますが、誠におめでとう」と喜んでみます。

寺院経営の難しい状況の中で新発意の誕生は、門徒の一人として大いに元気づけられ、仏道に励まねばと思いを新たにしているところです。

お彼岸の法話会開かれる

九月二十三日(土)

午後2時より3時15分

真夏の暑さからやっと解放され、秋の訪れを感じさせるさわやかな一日となりました。

今年の秋季永代経は午前が特別永代経。午後は、光受寺学習会と兼ねての「法話会」として、YouTubeで流されている法話を聴聞いたしました。参加者は住職入れて十二名でした。

講師は、以前にも紹介しました瓜生 崇氏の慶讃法要のテーマである「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていく」というお話でした。

私たちは誰かのために世に生まれてきたわけでもないのに「なぜ生き



なければならぬのか」、人生の根本問題が問われています。瓜生氏は人間が生きるためには、自分が存在していることの価値を周りが認め、自分自身もそのことを自覚してこそ生きられるということです。しかし、それは人間の抱える老、病、死によってあつてなく崩れ去り、深い悩みや苦悩となっていくのです。どうせ死ぬのになぜ生きる。私たちはこの問題を生きている今こそ解決しなければならぬのだと伝えられているように思いました。今回の視聴は時間の関係で前半だけのお話に終わってしまいました。この続きは学習会(下記、お知らせ)で行う予定です。

意外に知らない仏教用語

移徙(おわたまし)

移徙とは「うつりうつく」という意味があり、「渡って安置される」という意味です。

本尊や仏壇を新たに安置する時や、場所を移す場合には法要をつとめますが、この法要を入仏法要と言います。「お性根入れ、抜き」などこの地域では言いますが、本尊の魂や性根を入れたり、出したりするわけではありませんので、改めていきたいものです。

また、執り行うにあたって、日時や、方角等さまざまな迷信にとらわれる必要はありません。大切なのは落ち着いて礼拝できる環境を整えることなのです。

お知らせ

仏法に学びつ

気づきと感動のある人生を



○光受寺学習会 十月二十一日(土) 午後2時～

『歎異抄』第4条について 3時半

テキスト用意できました。(無料配布)

○おべらサロ 十月十九日(金) 廣専寺にて

午後一時半～二時半頃まで
初めての方にも分かりますくお話します。

仏教小断(こぼなし) 光受寺若院

『正信偈』の話 廣専寺若院

